

タイトル…『汐製菓会社の新作』
『フィナンシェ』
『世界は君のチーズを待っている！？』

シーン…発表会議（拡大）

（オフィス。ホワイトボードには「新作アイデア募集中！」と大きく書かれている。社員たちが集まり、空気がピリピリしている。塩田は資料を抱え、そわそわと周囲を見回している。すると、汐が大きな地球儀を抱えて登場。）

汐…（元気よく）「みんな、集まったな！今日はついに発表するぞ、世界を震撼させる新作だ！」

（社員たちがざわつく。塩田は一步前に出て、不安そうな表情を見せる。）

塩田：「社長、今回は一体どんな…？」

汐：「さあ、聞いて驚け！『チーズフォンデュ味
フィンアンシエ』だ！！」

（その瞬間、社員たちの間に奇妙な沈黙が広がる。数秒後、一人の社員が恐る恐る手を挙げる。）

社員A：「社長、フィンアンシエって…甘いお菓子ですよ？それに、チーズフォンデュって…」

汐：（大げさに頷いて）「そうだ！甘いフィンアンシエと、溶ける濃厚なチーズ、この二つが組み合わせることで、前代未聞の味が生まれるのだ！」

塩田：（ひそひそと）「まさか、そんな…」

社員B：（困惑しながら）「でも、その組み合わせ…想像つきませんが…」

汐…「だからこそだ！常識に囚われてはならん！これは革命だ！」

塩田…（弱々しく）「革命…ですかね…？」

汐…「そうだ！世界の舌を驚かせるには、常識なんて捨て去るべきだ！」

（社員たちは目をそらし、塩田は頭を抱える。）

塩田…（心の声）「またとんでもないことが始まった…」

シーン2：試作地獄（拡大）

（試作キッチン。白衣を着た汐が巨大なフィナンシェ型を並べ、意気揚々と溶けたチーズをフィナンシェに流し込んでいる。塩田は隅でノートを抱えて見守っている。）

汐…「見ろ、このフィナンシエ！これぞ美と味の融合！チーズの川が流れるフィナンシエの山だ！」

塩田…（青ざめて）「いやいやいや、社長、それ完全にチーズがフィナンシエを埋めてますって！」

（フィナンシエの上にどんどんチーズが流れ込み、形が崩れ、見るも無惨な姿に。）

汐…「完璧だ…まさに芸術品だな！」

（汐がオーブンを開けると、チーズで溶けたフィナンシエが溢れ出てくる。塩田は思わず顔を覆う。）

塩田…「これ、まさにチーズ災害…。どうやってお客さんに出すんですか？」

汐…「いやいや、これでいいんだ！人々は予想を超えたものに驚き、喜ぶものだ！」

(そこへ試食の社員たちが集まってくる。)

社員A: 「あの、社長…これ、食べられますかね…?」

汐: 「さあ、食べてみる! 驚くだろう!」

(社員たちが恐る恐るフィナンシエを口に運ぶが、瞬時に顔が歪む。)

社員B: 「えっと…これは…お菓子というよりも…なんというか…塩味が強すぎて…」

社員C: 「これ、主食になるレベルの濃厚さです…ね…」

塩田: (苦笑しながら)「ですよね、やっぱり…」

シーン③:フィナンシエ世界ツアー(拡大)

（場面はフランス、パリの菓子フェスティバル。
会場は豪華で、人々が品の良い菓子を楽し
んでいる中、汐と塩田が自信满满でフィン
シエのブースを開いている。）

汐：「ついに来たぞ、本場フランス！ここで我
がフィナンシエがどれほどの評価を得るか楽し
みだ！」

塩田：（不安そうに）「本当に大丈夫ですか
ね！？フランス人って味にこだわりますし…」

（そこに、フランス人客が現れる。）

フランス人客A：「Bonjour、これはフィナンシ
エか？チーズフォンデュ味…？」

（試食すると、彼の顔が引きつる。）

フランス人客B：「これは…一体何だ？チー
ズが強すぎて、フィナンシエの味が全く感じら
れない…」

フランス人客 ㊦ (苦笑しながら)「こんなフィナンシエは、フランスには存在しない！」

(他のフランス人客たちも次々に試食するが、みな困惑の表情を見せる。)

塩田 (耳打ち)「だから言ったのに…」

汐 (熱く)「いや、まだまだ！次はイタリアだ！イタリア人はチーズが好きだから、絶対にウケるはずだ！」

シーン㊦：イタリアでの試食会(拡大)

(イタリア、ローマの屋外市場。人々が賑わい、イタリアらしい陽気な音楽が流れる。汐と塩田がブースを設置し、チーズフィナンシエを並べている。)

汐：「Buongiorno！さあ、新作のフィナンシ

エ・アッラ・フォンデュをお試しあれ！」

イタリア人客 A: 「フィナンシェにチーズ…？これはジョークか？」

(イタリア人客 B が試食すると、困惑した表情を見せる。)

イタリア人客 B: 「これはデザートなのか？それとも前菜か？」

イタリア人客 C: (笑いながら)「どっちでもない！これは全く別物だ！」

塩田: (苦笑しながら)「まさか、ここまで酷評されるとは…」

汐: 「いやいや、笑っているということは興味を引いている証拠だ！」

シーン 5: フィナンシェが暴走(拡大)

（アメリカ、ニューヨーク。巨大な食品展示会の会場。汐はフィナンシエタワーをさらに大きくし、塩田は横で不安そうな顔をしている。）

汐…「さあ、ついにアメリカだ！ここはなんでもアリの国だから、成功間違いなしだ！」

塩田…「でも、社長…あのフィナンシエタワー、重すぎて崩れませんか？」

（突然、フィナンシエタワーが揺れ始める。チーズが溶け出し、ブース全体に流れ出す。）

客A…「わあああ！何だこれ！フィナンシエの洪水だ！」

客B…「助けて！チーズが靴に入った！」

塩田…（絶望的に）「もう、これはフィナンシエじゃなくて災害ですよ…」

シーンの…帰国後の大反省会（拡大）

（汐製菓のオフィスに戻り、社内での反省会が始まる。社員たちは疲れ切っている。塩田は大きなため息をつき、汐はまだ元気そうだ。）

塩田：「社長…このチーズフォンデュ味フィナンシエ、世界ツアーはあまりに厳しかったです…。」

社員A：「フランスでは『理解できない』と言われ、イタリアでは『前菜かデザートかわからない』と笑われ、アメリカでは『フィナンシエタワーが崩壊してチーズ洪水ですよ。』」

塩田：（心の声）「もう、これで終わりにしてほしい…。」

（汐は何かを考え込むような仕草をするが、急に大きく頷く。）

汐：「しかし、何か足りなかったんだ！」

社員B：「え…まだ続けるつもりですか？」

塩田：「足りない？それって一体何ですか？」

（汐は立ち上がり、ホワイトボードに大きく『フィナンシエの計画』と書く。）

汐：「そうだ！次はフィナンシエの中に、さらに『デザート』を詰め込む！『デザート・オン・デザート』！例えば、フィナンシエの中にチョコレートケーキを入れてみるんだ！」

塩田：「え…社長、それは…さすがに…」

社員：「そんなもの、食べられるんでしょうか？」

汐：「もちろんだ！これでデザート業界を再び驚かせるんだ！チーズフォンデュ味が不評だったのはきっと偶然だ。次は大成間違いなし！」

（塩田は頭を抱えるが、汐の止まらない勢いにあきれながらも、再び準備を始める。）

塩田：（心の声）「どうしていつもこんな無茶なことばかり…。でも、どこかで期待している自分もいる…。この会社に入ったのは、やっぱりお菓子が好きだからかも。」

シーン⑦：奇跡の大ヒット（拡大）

（数週間後、汐製菓は新たなフィナンシエ『デザート・オン・デザート』を発表。社内は再び大混乱に見えるが、予想外のことが起こる。）

（試食会場。フィナンシエの中にチョコレートケーキが詰められた驚きの新商品を前に、来場者たちが大勢集まっている。）

客A：「なんだこれ！？フィナンシエの中にさらにデザートが入ってるのか！？」

客B：「見たこともない組み合わせだけど…意外と美味しい！」

塩田…（驚きの表情）「え、まさか…これ、本当にウケてるんですか…？」

汐…（誇らしげに）「見ろ！これが私のフィナンシエ革命だ！デザート界に新たな風を吹き込んだぞ！」

（来場者たちが次々とフィナンシエを試食し、SNSで拡散。口コミで瞬く間に話題になり、ニュースにも取り上げられる。）

ニュースキャスター…「汐製菓の新作フィナンシエ『デザート・オン・デザート』が大ヒット！国内外の注目を集め、店舗には長蛇の列ができています。」

（塩田は驚きながらも、笑みを浮かべて汐を見つめる。）

塩田…「…社長、今回は本当に成功しましたね。」

汐…「ふふん、見ただろう？常識を超えた発想が世界を変えるんだ！次は『フィナンシエ4』だ！」

塩田…（慌てて）「え！？もう次の話ですか！？まだこの成功を味わう暇もないのに…」

汐…「次はもっとすごいものを作るぞ！フィナンシエの中にアイスクリームを詰め込んでみたらどうだろう！？」

塩田…「もう、社長、勘弁してください…。」

（塩田は笑いながら肩を落とすが、どこか楽しそうな表情を浮かべている。）

エンディング

（最後は汐製菓の新しい店舗のオープン風景。長蛇の列ができ、みんながフィナンシエを

買い求めている。汐と塩田が店頭に立ち、笑顔でお客さんを迎える。(

汐：「さあ、どんどん買ってこれ！これが未来のフィナンシェだ！」

塩田：（少し照れ笑いしながら）「未来……ですか。でも、確かに面白いですね、社長の発想は。」

汐：「面白いことがないなら、作るしかないだろう？」

塩田：「はい、社長。」

(～人は楽しそうに笑いながら、次々と訪れるお客さんにフィナンシェを手渡す。空には明るい太陽が輝き、物語はハッピーエンドを迎える。)

エピソード(もしも次回作があれば…)

（汐が次の新作アイデアを閃き、再び塩田を巻き込む壮大なプロジェクトが始まる…。）